

「住みたくなるまち日本一」を目指して

富谷市記者会見資料⑤
令和4年9月28日
経済産業部産業観光課
担当：松原
連絡先：022-358-0524

「宮城の大豆食文化」保護・継承プロジェクト キックオフイベントの開催

文化庁「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業として採択され、令和4年度文化芸術振興費補助金（10/10）を活用し、宮城の大豆食文化の文化財登録を目指すプロジェクトが富谷市で行われます。

かつて、みそしょうゆが製造されるなど、大豆文化が存在した富谷市を拠点に、宮城の大豆の歴史・文化を紐とき、生産・加工の技術、大豆食文化を保護・継承し定着を目指します。

下記のとおりキックオフイベントを開催し、皆さまにもご参加いただけるイベントとなっております。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひ申込の告知を含めて、取材していただきますようお願いいたします。

記

1. 日 時 10月15日(土) 午後2時～午後4時
2. 場 所 市役所1階 市民交流ホール
3. 内 容 パネルディスカッション「宮城の大豆食文化の系譜から辿る、大豆食の今と昔」
4. 登壇者 富谷市長 外 有識者5名
5. 申 込 定員100名（定員に達し次第受付終了）
申込方法については、別添チラシのとおり登録フォームまたはFAXにより **10月10日(月)まで** お申し込みください。

【今後のスケジュール】

- ・令和4年10月 有識者検討会（計3回）
- ・令和4年11～12月 市民参加型 みそづくりワークショップ
レシピコンテスト、食文化セミナー など
- ・令和5年1月 成果発表会

富谷のみそ・しょうゆを復活へ ～富谷と大豆の関わり～

藩政時代に宿場町として栄えたしんまち地区に、みそ・しょうゆを製造する内ヶ崎醤油店があり、2008年まで製造が続けられていました。製造終了後も、工場や母屋が残されていましたが、建物をリノベーションして令和3年5月15日に誕生したのが富谷宿観光交流ステーション・とみやどです。製造当時に使用していたみそ樽を、とみやどのシンボルとして活用しています。このプロジェクトは、以前作られていた富谷のみそ・しょうゆ復活の足がかりとしていきます。



宿場町富谷の歴史からひもとく 宮城の大豆ロード

令和4年度「宮城の大豆食文化」保護・継承プロジェクトキックオフイベント

WARM UP TALK ウォームアップトーク

「伊達政宗公の歴史、宿場町富谷市の発展との関係性」

●スピーカー……………平川 新氏(東北大学 名誉教授) / 菅野 正道氏(郷土史家)

PANEL DISCUSSION パネルディスカッション

テーマ「宮城の食文化の系譜から辿る、大豆食の今と昔」

●パネリスト……………亀田 治氏(合資会社亀兵商店 代表社員) / 平川 新氏(東北大学 名誉教授) / 菅野 正道氏(郷土史家)

若生 裕俊氏(富谷市市長) / 橋本 建哉氏(宮城県食産業振興課技術副参事)

●MC/ファシリテーター……千葉 富士男氏(郷土史研究家)

2022年10月15日[土]

開場・13:30 | 開演・14:00-16:00 | 会場・富谷市役所市民交流ホール | 入場無料

ご来場の際はFAX、または登録フォームより事前登録をお願いいたします。(先着100名)※定員になり次第締め切り。

FAX 022-721-7092 登録フォーム <https://forms.gle/ALTZB883o9f3Zj77A>

